

都道府県別賞一等

将来のための生命保険

群馬県 前橋市立南橋中学校 二学年

富澤 ゆほな

人はいつ死ぬのか。それは、誰も分かりません。あと百年生きる人、五十年生きる人、明日までの人……。いったいいつまで生きられるのでしょうか。また、その生涯の中にはどんな運命が待ち受けているのでしょうか。私はまだ中学生なので、将来のことは「あれになりたい」「こんな生活をしたい」などと、何となくぼんやり描いているだけでした。だから、「生命」について深く考えたことがありませんでしたし、「保険」についても考えたことはありませんでした。しかし、「どうして保険は必要なのか。」「それぞれの役割とは何か。」などの疑問から「保険の必要性」について理解できるようになりました。

そもそも、何故皆は保険に入っているのでしょうか。そこには、自分だけではなく家族への思いというものが秘められていました。

生命保険とは、大勢の人が公平に保険料を負担しあい、いざというときに給付を受けるものです。言わば、大勢の人による「助け合い」や「相互扶助」の仕組みで成り立っている、ということなんです。いざというときというのは、私達では予測しきれない出来事が起きたときです。そして、そのことで経済的に生活困難や、思い描いていた生活ができなくなったりする可能性があるのです。そんなときに生命保険はとても重要になってくるというわけです。

では、生命保険とどう付き合っていけばよいのでしょうか。様々なメディアから、次のようなことを聞いたことがあります。「今の若者は理解しないまま生命保険に入っている」と――。確かにそう言われると、私自身、実際には入っていないでも納得してしまいます。また、新入社員は、会社の上司に勧められたりということも多いらしく、色々な保険に入ってしまうがちだそうです。私はそういう人たちが詐欺にあっってしまったかわないか心配です。そんなことにならないためにも、中学生のうちからしっかりと深く考え、理解することが大切だということを感じました。

将来、もしかしたら私は家庭を築き、子どもを産むかもしれませんが。そんなときに自分が死んでしまったら、私の家庭はどうなってしまうのでしょうか。保険に入っておけば、夫は困らずに暮らしていけるでしょう。ですが、もし入っていないかったら、夫は子育てに苦労してしまい、ついには子どもを手放さざるをえない状況になってしまうかもしれません。自分が保険に入っているのか入っていないのかというだけで、周りの環境はとて変わっていきます。

第54回中学生作文コンクール

自分の家族の将来が危うくなりかねません。

私は、『中学生の頃から生命保険を考えるなんて、早すぎる』と最初は思っていました。しかし、保険について様々なことを知り、考えていくとそうは感じなくなりました。私の心の中に「身近なこと」としてすっかり刻まれました。そんな風に生命保険を「まだ早い」ではなく、「身近」と感じるのが大切だと強く思います。今のうちから、しっかりとした将来を描き、実現するために様々な知識を蓄積し活用していききたいです。そして、今私が学んだことや感じたことを大切にし、まっとうしておくのではなく、周りの友達や家族にも自身の思いを伝え、話し合いたいと思います。

このような地道なことであろうと、コツコツと頑張っていきたいと思います。そうすれば、現代の若者一人ひとりに「保険に対する思い」がしっかりと定着し、一人ひとりがかけがえのないすてきな生涯を過ごすことができると思います。この「中学生時代」を有効に使って頑張りたいです。